

学校の正門広場を思い出の場所としたパブリックアート

「高松第一学園」は小学校 3 校と中学校 2 校が統廃合された小中一貫校で、建物も非常に革新的でユニークなものである。校舎のアートワークはそれぞれの学校の原風景をとどめるとともに新たな風景を未来へ引きついでゆくという役割をもっていた。卒業生にとって母校の校舎、広場、グラウンドは青春を彩る原風景です。校舎はそれぞれの風景をとどめるとともに新たな風景を未来へ引きついでゆくという役割をもっている。そのためアートワークは児童、生徒が毎日通る思い出の場所、正門から昇降口への広場の床面をデザインし、視覚に訴え記憶に残る新たな風景を創りだしている。

もともと予定された工事の舗装材を白、グレー、黒を着色、その 3 色の正方形（30cm 角）を各 3 枚集めて 9 枚、90cm のユニット（単位）とした。その色の組み合わせを通じて、420 通りものパターンができるという、その視覚的効果を活用、そのパターンを登下校に通る場所にサークル状に敷き詰めた。

そのひとつひとつのユニットはシンプルな形だがすべてがちがう個性的な存在である。それらはみんなの豊かな個性と互いの対話と協働や、眼（感性）と手（技術）と頭脳（知性）による創造的な活動を表し、すべての学習に通じるものを意味している。

さらに、その色や一定の規則による作品は、それぞれの関係性が個人間（例えば学校内の個々の生徒たち）や特定の共同体間（例えば統廃合された各小・中学校）に成り立つコミュニケーションやコラボレーションの無限の豊かさを示しており、学校の思い出を彩る風景であってほしいという想いが込められている。